福井県における郷土史研究の動向　～平成27年～

昨年度は、久我元氏、三上一夫氏そして白崎昭一郎氏と、長年福井県の郷土史界をリードされた先生方が鬼籍に入られた。福井県郷土誌懇談会は『若越郷土研究』第60巻1号で三上氏の業績をまとめ、古代史の海の会は『古代史の海』第79号を「白崎昭一郎氏追悼号」として刊行した。

敦賀市立博物館は、平成27年7月にリニューアルオープンし、また坂井市丸岡町には8月に「一筆啓上日本一短い手紙の館」がオープンした。「一筆啓上～」はコンクールの過去入賞作など手紙文化を全国に発信していく。

次に平成27年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向としたい。

■歴史・自治体史・地域史・史跡調査報告書

福井県は、越前若狭の戦国ゆかりの地を巡る小冊子『戦国歴旅ガイドブック』を刊行した。戦国史研究会は、会誌『戦国史研究』70号で〈特集・越前の戦国〉を組み、長谷川裕子氏ら三名が論文を寄せている。

越前市教育委員会は『越前市史　資料編7』を刊行した。明治から昭和二十年までの初等教育について収録する。若狭町は『若狭町ふるさと歴史発見』を発行。三方五湖や熊川宿の他にも数多く残されている歴史遺産についてまとめた。

地域史も数多く発行された。福井市旭公民館は三冊目となる『旭区史』、「ふるさと岡保」編集委員会は郷土誌『ふるさと岡保』を発刊した。「村の歴史懇話会」は『温故叢談第十一号』を作成、地元出身の俳優宇野重吉生誕百年記念事業をまとめた。森坂克彦氏は『乾徳地区の今昔　其の三』を刊行した。網本恒治郎氏は『駆逐艦「榎」の終焉』を刊行。小浜湾で沈んだ駆逐艦「榎」と艦隊を組んでいた巡洋艦「酒匂」の元乗組員の遺稿をまとめた。大野市の下庄をよくする会は『下庄の名所・史跡』を刊行。14年前に別団体が発刊した同書の改訂版になる。大野市温見白山神社遷座50年記念事業実行委員会は『思い出を寄せて綴る温見誌』を発行。半世紀前に無人の集落となった温見の元住民らが、歴史や思い出をまとめた。あわら市のほそろぎ歴史を語る会は『ほそろぎ今昔』を発刊した。「坂井町古文書の会」は江戸時代の豪商内田家に関する『内田惣右衛門家文書記録』を刊行した。財政的に行き詰った福井藩が、内田家から幾度も調達金・御用金を求めた経緯などが記されている。豊原史跡保存会は『越前豊原　第2号』、のうねの郷づくり推進協議会は『紀要のうね郷誌第4号』、美浜町教育委員会は『若狭の塩、再考　古代若狭の塩の生産と流通をめぐって』、若狭国吉歴史資料館はブックレット『佐柿の寺社と町家～見どころ編2』、美浜文化叢書刊行会は最終巻を迎えた『ふるさと昔よもやま話』をそれぞれ刊行した。

主な発掘報告書には、『福井城跡』（第2，3分冊）『天王前山古墳群』（福井県教育委員会）、『石盛遺跡2』（福井市教育委員会）、『三谷遺跡』（その3，4）（勝山市教育委員会）などがある。また古代学協会は調査から60年でまとめた『糞置荘・二上遺跡の調査研究』を刊行した。

■人物・地誌・ガイドブック

福井県文書館は『福井藩士履歴3』を刊行。巻末に高木不二氏による解説が寄せられた。福井県立こども歴史文化館は『ふくいの先人たちミニ事典』を刊行、シリーズで紹介した先人143人に新たに9人を加えた人物索引。鯖江市教育委員会は「間部詮勝プロジェクト」特別講演会の記録をまとめた『間部詮勝と幕末維新の軌跡』を刊行。家近良樹氏は『ある豪農一家の近代』（講談社）を刊行、越前一の豪農として知られる杉田家を通して日本の近代を考える。稲葉朝成氏は『結城松平家と家臣団』、堀江洋之氏は『堀江一族物語』（歴研）、島田辰彦氏は『福井ゆかりの人

逸話集』（エクシート）をまとめた。敦賀水戸烈士百五十年記念事業実行委員会は記念誌『梅香』、小浜市郷土歴史会は『梅田雲浜の実像に迫る』を出版した。岡村昌二郎氏は、小浜藩初代藩主の酒井忠勝の業績を記した古記録『仰景録』を活字化し、誰でも読める冊子に仕上げた。林淳氏は『天爵大神福井をゆく』（勝山城博物館）を刊行。道路改修に半生を捧げた元尾張藩士水谷忠厚の業績をまとめた。多賀谷左近三経奉賛会は『多賀谷左近三経公記』を刊行。三経は初代福井藩主結城秀康の重臣。宮本久氏は『越前丸岡城と歴代城主』を発行、新説を披露している。木下聡氏は「斯波氏」に関する13人の論考を集成した『管領斯波氏』（戎光祥出版）を出版。「斯波氏」は室町幕府においても、また守護を務めた越前・尾張・遠江国にも不可欠な存在。折笠尚氏は『飯田廣助小伝』（文藝春秋企画出版部）を刊行。飯田廣助は池田町の名望家で、のちに朝鮮に農場を開設するに至った人物。吉川弘文館は『皇族元勲と明治人のアルバム写真師丸木利陽とその作品』を出版。丸木利陽は明治から大正にかけて「御用写真師」として活躍した。

鈴木俊之氏は『福井あるある』（ＴＯブックス）を刊行。県外の人にも興味を持ってもらえるような本として企画された。三澤和男氏は『福井周辺の山々を歩く』を美しい写真などでまとめた。

■政治・経済・各分野団体史

藤吉雅春氏は『福井モデル』（文藝春秋）を刊行。人口減少や財政難に直面する地方都市の目指すべき方向性を示した。セーレンは創業125年を記念して『希望の共有をめざして　セーレン経営史』を刊行。通常の社史にとどまらず、実践的な「経営史」をめざして編集された。

各分野団体史では、仁愛女子短期大学は『和　仁愛女子短期大学五十年史』、福井県立ろう学校は創立百周年記念の『野にひらく花のように』【電子資料】、福井市常葉幼稚園は創立百周年記念誌『こどもとともに』、福井市青少年育成市民会議は、創立30周年記念誌『未来の君へ活動のバトンタッチ！』、大野市小山公民館は、65年の活動をまとめた『あかねのながれ』、福井県赤十字血液センターは『献血のあゆみ五十年』、丹南芸術家協会は『創立40周年記念作品集』、福井県ボート協会は『福井県ボート協会50年史』、ふくい子ども劇場は閉会記念誌『さよならあんころもちまたきなこ』をそれぞれ刊行した。

■宗教・教育・民俗

三井紀生氏は『下池田の神社と道場のすがた』（池田町教育委員会）、『みやまの神社信仰のすがた』（美山公民館）をまとめた。いずれも当該地区の神社や道場について悉皆調査した労作。関根達人氏らは『越前三国湊の中近世墓標』（弘前大学）を発行した。坂井市三国町近辺の墓標（３３８０基）に関する成果報告書。あわら市と本願寺文化興隆財団は『蓮如さんかるた』を作成した。蓮如にまつわる各地の逸話を題材にし、里中満智子ら三名の漫画家が絵札を担当した。

福井安居中学校は『生徒が主役の学校づくり』を出版。同校は平成24年に小中併設校から分離移転して開校。この３年の成果をまとめた。福井らしさを語る会は『福井県の教育力の秘密　県外から来た教師だからわかった』（学研教育みらい）を刊行した。

福井県教育委員会は『福井県の祭り・行事』を刊行。３年にわたる調査をまとめた。池田町教育委員会は『英語で読む池田の民話』を刊行。今春より中学校の副読本として活用する。おおい町教育委員会は県指定無形民俗文化財の『苅田比賣神社秋季例祭　下村の獅子舞』【電子資料】を製作した。若狭町伝統文化保存協会は『若狭町の戸祝い・キツネガリ調査報告書』を刊行、小正月の子ども行事「戸祝い」「キツネガリ」についてはじめての調査報告書となる。滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科市川研究室は２年にわたる調査をまとめた『田烏・矢代の民俗』を

刊行した。

■自然

越前町立福井総合植物園は『プラントピアガイドブック』をまとめた。月毎に見頃の植物をカラーで紹介する。大野市教育委員会は児童生徒向けに『和泉の化石』を作成した。林武雄氏は『ふくいの野鳥史』を刊行。『私の野鳥記』の続編になる。中江訓氏らは『冠山地域の地質』（産業技術総合研究所地質調査総合センター）を刊行。現地踏査による地質研究とその後の補備調査結果に基づくもの。中川毅氏は『時を刻む湖』（岩波書店）を刊行。福井県の水月湖が考古学上の「世界標準時」と認められるまでの二十数年にわたる物語。坂井市春江ふるさと歴史会は『磯部川流域物語』を発行。地区内を流れる磯部川とその流域の歴史や変遷、自然環境をまとめた。福井新聞社は『辞令！コウノトリ支局員を命ず』を刊行。44年前に越前市の里山で保護されたコウノトリが再び空に舞うまでを記者たちが綴った。一方福井県はコウノトリ絶滅と復活の歴史をまとめた『コウノトリ羽ばたく福井県の未来』【電子資料】を製作した。

■工業・土木・建築・家政学

ネオテクノロジーは『近代化への夜明け前』を刊行。明治時代の福井県の特許情報をまとめた。敦賀市立博物館は『旧大和田銀行本店建物（敦賀市立博物館）修復事業完了記念誌』、『旧大和田銀行本店建物修理報告書』を刊行。文化財として修復を終えた建物についてまとめた。南越前町教育委員会は『中村家住宅調査報告書』を発刊。同家はすでに北前船主館として紹介されているが、新資料をもとに建築と文献史料の両面からの考証がなされた。吉田純一氏は、県内の城の歴史や特徴をまとめた『福井の城あれこれ話』を出版。吉川博和氏は『雲井にあげよ』（ＤｏＣｏｍｐａｎｙ出版）を電子出版した。県内の代表的な城を写真と記事で解説し反響があった新聞連載「ふくい城物語」に加筆した。はたや記念館ゆめおーれ勝山は『世界へとどけ！勝山シルク』を刊行。勝山製糸会社と官営富岡製糸場の関係についてまとめた。鯖江市うるしの里かわだまちづくり協議会は『山田トシさんの手料理帳』を出版。91歳になる山田さんの郷土色豊かなレシピを節気ごとに紹介した。

■産業・芸術・文学

坂井市東十郷まちづくり協議会は、写真集『十郷用水の流れ』を発刊。福井県はガイドブック『福井の地魚』を作成、県産水産物の流通・消費の拡大を狙う。鉄道友の会福井支部は『ふくいの鉄道160年』を刊行。県内の鉄道の成り立ちや変遷、近年の動きなどを系統的に紹介した。

福井新聞社は第87回選抜高校野球大会で優勝した敦賀気比高等学校を記念して『敦賀気比優勝記念写真集』を刊行した。

文学では、宮下奈都氏の小説『羊と鋼の森』（文藝春秋）が県内在住の作家として初めて直木賞候補となった。惜しくも受賞はならなかったが、県文学館や県立図書館で関連展示を行い大いに盛り上がった。

■歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。福井県文書館は「時代のおとしもの落書」、福井県立歴史博物館は「再会・福井の名宝たち」、福井県立若狭歴史博物館は「若狭武田氏の誇り」、一乗谷朝倉氏遺跡史料館は「一乗谷　戦国城下町の栄華」、福井市立郷土歴史博物館は「ヱヴァンゲリヲンと日本刀展」、敦賀市立博物館は特別展「大谷吉継～人とことば」、越前町織田文化歴史館は「神と仏」をそれぞれ開催した。

以上、紙面の都合上により、個人史、抜刷など割愛した資料や、漏れた資料についてはお許しいただきたい。